

[準硬式野球] 関東地区大学選手権

20年ぶり5度目の優勝 8月の全日本大学選手権に出場

関東地区大学準硬式野球選手権の決勝戦が6月4日、八王子市民球場で行われ、日大を5―3で下し、20年ぶり5度目の優勝を果たした。この結果、5年ぶり14回目となる全日本大学選手権(8月18～23日、宮城県仙台市)の出場が決定した。

根本雅彦主将(経済4・竜ヶ崎一高)は「リーグ戦で負けていた相手なので絶対勝ちたかった。全日本大学でも優勝を狙いたい」と答えた。8回に逆転の2点適時3塁打を放った加瀬将志外野手(商3・専大松戸高)は「上級生のためにも何とか打ちたかった。ボールにくらいつく姿勢が良い結果につな



▲優勝を喜ぶ準硬ナイン

がった」と語り、完投勝利の田中暁投手(経営2・鳴門工高)は「調子は良くなかったが、笠間捕手(隆雄＝文4・専大松戸高)からアドバイスがあり、何とか勝つことが出来た。調子を上げて全日本大学の初戦を飾りたい」と今後の目標を語った。

(田口 能成・経済3＝写真も)

3月29日に開幕した、東都大学準硬式野球春季リーグ戦は5月31日の中大との最終戦を2-0で勝利し、7勝5敗の3位で修了。7勝を挙げた田中が最優秀投手賞とベストナインに選ばれた。

(有馬 利香・商3)

[野球] 東都大学野球春季リーグ戦

馬場、久保田がベストナイン 入替戦に敗れ来季は2部

東都大学野球春季1部リーグの全日程が5月30日に終了し、専大は3勝10敗1分の勝ち点0で最下位に終わった。

ベストナインには二塁手で馬場強司(商3・東邦高)、三塁手で久保田健仁(商3・明德義塾高)の2人が選出された。



1部2部入れ替え戦が6月9日から11日まで(10日は雨天中止)、2部1位の立正大を相手に行われた。3—7で敗れた1戦目に続き、2戦目も2—5で落とし、来季の2部降格が決定した。敗れはしたが、2戦目で適時打を含む3安打を放った山田晃典(経済3・金沢高)を中心に意地を見せた。

試合終了後、立ち上がれなくなる程に感じた悔しさをバネに、秋のリーグ戦では絶対にはい上がろう。

(田口 能成・経済3)

[卓球] 春季関東学生リーグ戦

男子・松岡が最優秀新人、女子7季ぶり1部復帰

春季関東学生卓球リーグ戦が5月7日から11日まで、代々木第2体育館で行われた。

男子は徳増信弥(経済2・杜若高)、森田翔樹(商2・青森山田高)、松岡新也(経済1・東奥学園高)がシングルスで白星を稼いだ。力及ばず5位に終わった。リーグ2戦目から出場し、4戦全勝の松岡が最優秀新人賞と優秀選手賞を受賞した。

女子は5戦全勝で2部リーグ優勝。日大との入れ替え戦(6月10日、中央大学体育館)も4―1で制し、7季ぶりの1部復帰を果たした。また、高瑜瑤(商1・秀光中等教育学校)が敢闘賞に選ばれた。



▲ダブル受賞の松岡(撮影・田口)

(田口 能成・経済3)

[陸上競技] 関東学生対校選手権

800メートルで佐藤2位

関東学生陸上競技対校選手権・兼ユニバーシアード日本代表選手選考競技会が5月12日から19日まで、東京・国立競技場で行われた。専大は男子2部に出場。中・長距離やリレー、競歩などに各選手が出場し、800メートルで佐藤豪（経済1・村上桜ヶ丘高）が2位となった。1500メートルでも9位となった佐藤は、800メートル決勝を振り返り、「いけるところまでいこうと思った。先頭でレースを展開するのが好きなので、自分の力を出せたと思う」と語った。

（松本 かおり・文2）



▲積極的なレース運びで2位となった佐藤＝左から2人目（撮影・有馬）

[漕艇] 東京都カヌー選手権

カヤックシングル500メートル渡邊が連覇

東京都カヌー選手権が6月2、3日、山梨県精進湖で行われ、カヤックシングル500メートルで渡邊秀幸(文2・富士河口湖高)が優勝を果たした。

渡邊は前年度も優勝しており、連覇を達成した。今回の結果について「昨年も優勝していたので負けられない大会だった。課題である持久力の強化が大学入学以降うまくいっていることが勝因だと思う。今後はインカレに出場し、メダルを取ることを目標にしたい」と力強く語った。

また、真鍋達朗(商2・久美浜高)が準優勝したのをはじめ、多くの部員が上位に入った。



▲健闘した部員たち — 前列左から2人目が渡邊、前列右端は真鍋

(田口 能成・経済3)

[アーチェリー] 全日本学生東日本大会

佐伯4位で「全日本学生」出場へ

全日本学生アーチェリー東日本大会が5月26、27日、北海道立野幌総合運動公園で行われた。専大から佐伯朋哉（経営2・大宮開成高）が出場し、1248点で4位入賞。秋の全日本学生個人選手権の出場権を得た。

昨年の8位を上回る結果を残したが、「相手と競ってしまった状況で冷静に試合運びが出来なかった」と課題を挙げた。

2年連続の出場となる全日本学生については「予選を突破し、トーナメントで全国の強豪選手と1回でも多く力比べをしたい」と話した。

（荻野 敦子・文3）

[水球] 日本選手権予選会

日本選手権出場へ

日本選手権水泳競技大会水球競技(6月29日～7月1日、東京体育館内プール)の予選会が6月9、10日、専大プールほかで行われた。専大は全慶応大、プロミネンスに勝利し、日本選手権出場を決めた。

また、東日本リーグ戦(5月5～27日、専大プールほか)は、1部Aリーグを3勝2敗の3位で終えたが、その後の順位決定戦で連敗し、最終順位は8位に終わった。

菅原大主将(経営4・山形工高)は「日本選手権に向け、一日一日を大事に練習し、昨年より良い成績を残せるように頑張りたい」と語った。

[柔道] 東京学生優勝大会

ベスト16入りで全日本学生出場

第56回東京学生柔道優勝大会が5月27日、日本武道館で行われた。1回戦シードの専大は2回戦、青学大に力の差を見せつけ、6―1で勝利した。

続く3回戦で東洋大に敗れたが、ベスト16入りを果たし、全日本学生柔道優勝大会(6月23、24日、日本武道館)の出場権を獲得した。

(有馬 利香・商3)



▲大外刈りを狙う伊藤道郎(左)

[バレーボール] 春季関東大学リーグ戦

栗山が新人賞受賞

春季関東大学バレーボールリーグ戦が4月14日から5月20日まで、駒沢大学体育館ほかで行われ、専大は男子2部リーグで3位。個人では栗山雅史(商1・佐賀商高)が新人賞を受賞した。

予選リーグで4勝3敗の4位となり、上位4チームによる順位決定戦に進んだが、国士舘大、明大に連敗。最終戦で中央学院大から白星を挙げ、意地を見せたが、5勝5敗の3位で入れ替え戦進出はならなかった。

栗山をはじめ、1年次生の活躍がチームに刺激を与えるはずだ。秋季リーグこそ1部復帰を勝ち取ってほしい。

(松原 弘和・法2)

[サッカー] 関東大学リーグ戦

勝ち点20で4位

関東大学サッカーリーグ戦(2部)の前期リーグ最終戦・東農大戦は、小幡純平(商1・國學院久我山高)が挙げた1点を守り切り、1―0で勝利。前期リーグを3連勝で締め、6勝3敗2分で勝ち点20、首位と勝ち点4差の4位で終えた。昇格出来るチームはわずかに上位2校。昇格圏で折り返すことは出来なかったが、4位は昇格を十分に狙える順位。荒田智之(商4・清水東高)が9ゴールで得点ランキングのトップタイにランクするなど、後期リーグでの躍進に期待が持てる。

(田口 能成・経済3)

[レスリング] 東日本学生リーグ戦

団体戦 グループ3位

東日本学生レスリングリーグ戦が5月10日から18日まで、東京・駒沢体育館で行われた。今大会は55kg級から120kg級までの全7階級で争う団体戦。

一部Bグループの専大は第1試合で中大から7―0の完全勝利を挙げ、好スタートを切ると、その後も、今リーグ戦7戦全勝の矢野将章(経済3・広陵高)らを中心に連勝を重ねたが、第6試合で日大に2―5で敗れた。日大、拓大と6勝1敗で並んだが、個人の勝敗数(34勝15敗)でグループ3位となった。

(有馬 利香・商3)